

第 15 回葉山町子ども・子育て会議 議事要旨

- 1 開催日時 平成 28 年 2 月 22 日 (月) 10 時～12 時
- 2 開催場所 葉山町役場 3 階 協議会室 2
- 3 開催形態 公開 (傍聴者 3 名)
- 4 出席者 委員 16 名出席 (定足数〇)。
欠席 4 名 (角井委員、柴田委員、森田委員、倉上委員)
- 5 議 事
 - (1) 開会
(事務局)
 - ・ 傍聴 3 名の入室。
 - ・ 資料の確認。
 - (2) 前回の確認
(事務局)

最終報告 (案) は、委員からの意見を基に事務局が今後の方向性 (案) などについて纏めたものになる。1 目標、2 現状、3 課題、4 子ども子育て会議で議論した今後の方向性 (案)、5 地域と行政が協働でできること (案) に分けている。

①利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業のあり方について
(事務局)

この事業を行っていくためにどうしたらいいのかを委員から意見をいただいた。委員からの意見を纏めると、限られた資源を活用しながらこの事業を行っていくためにどうしたらいいのかと言うところで、事務局が示した今後の方向性 (案) などに基づき、次のような意見がでた。

 - ・「葉みんぐ」の内容の充実。
 - ・「葉みんぐ」を子育て世代だけではなく住民全体への周知。
(配架の場所など)
 - ・子育てを支援する人の人材の育成をどうするか。
 - ・関係機関の横の繋がり・連携をどのようにしていくか。

② 一時預かり事業の拡充、ファミリー・サポート・センターについて
この事業を行っていくためにどうしたらいいのかを委員から意見をいただいた。委員からの意見を纏めると、一時預かりやファミリー・サポートなど安心して気軽に子どもを預けられる場所が増えるという目標に対し、事務局が示した今後の方向性（案）などに基づき、次のような意見がでた。

- ・利用者の助成については、ひとり親に限らず全体的に補助できるように工夫ができないか。
- ・支援会員がなるべく動ける工夫をしていく。
- ・現場サイドからは、簡単にこの会議で解決できることではなく、じっくりと大事なものは何かを考えていく。
- ・葉桜などのように地域ぐるみで行っている一時預かりに対し、町のバックアップ体制があれば良い。
- ・ファミリーサポートセンターの支援会員を増やすならば、もう少し周知の方法を工夫してみるべきである。

③放課後児童クラブ（放課後子ども教室）のあり方について

この事業を行っていくためにどうしたらいいのかを委員から意見をいただいた。委員からの意見を纏めると、子どもたちが放課後、安全で充実した時間を過ごせるようになるという目標に対し、事務局が示した今後の方向性（案）などに基づき、次のような意見がでた。

- ・学童クラブと放課後子ども教室はできれば両方ある方が良い。
- ・長柄小学校のPTAが考えている、放課後の子どもの居場所について町などがバックアップしていければ実現も早いかもしれない。
- ・様々な家庭の状況があるので、町直営の学童クラブは必要であり、今後は大きな1つの事業を動かしていく場合には、じっくり広く意見を募り、本当に子どもたちに何が必要なのか検討を慎重に行う必要がある。
- ・5時頃までの学校校庭開放は座談会でも意見があり委員の意見として吸い上げていく。

④12月6日に開催した座談会（放課後の子ども居場所・過ごし方）の実施報告。

⑤平成28年度の町内認可保育所と小規模保育所への入所受付報告。

- ⑥平成 28 年度の町直営の学童クラブへの入所受付報告。
- ⑦児童虐待防止オレンジリボンたすきリレーの実施報告。

(3) 議題

1. 子ども・子育て会議最終報告（案）について

- ①利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業のあり方について
（事務局）

○最初に、前回の、この会議で検討していただきたい3つの事項の方向性、対応などについて、町長への答申を行うため、事務局で最終報告（案）を作成した。この最終報告（案）は、前回の会議の中でいただいた意見や資料1に記載している前回の会議後に出していただいた意見を纏めたものになり、内容については、この会議で追加や修正などの意見をいただきたいと思っている。

○資料1の（1）利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業のあり方について、前回の会議後に各委員からいただいた意見を纏めたものになる。

- ・子育てコンシェルジュあるいは、コーディネーターの設置が必要と考える。
- ・子育て支援団体のメルマガ読者から、子育てサービスなどのいろいろな相談がある。
- ・現在の子育て世代は、スマホやSNSから情報を得ることが多いように感じる。
- ・子育て支援センターが町内に1カ所（一色）しかないことを考えると、ひろば事業の充実が必要だと考える。
- ・児童館で行っている学童保育の運営も含めて、民間に委託することを考えるべき。
- ・児童館については、学校や地域とのつながりも含めて、あり方を検討し内容を整備しなおすことが必要だと考える。児童館の先生も一生懸命な方が多いので、よりよいものになると思う。
- ・長柄地区（上・下）ともに、子育て世帯の転入が多く、行き場所がないといった声をよく聞く。南郷のショッピングセンターの活用を考える。
- ・民間の知恵と取り組みを上手に活用するべき。
- ・全体的な意見として、どの課題も抽象的な目標になっており、具体化するための内容がないように思える。本気で進めるにはもっと具

体的な方策を考えるべきではないか。

- 資料2は委員からの意見を基に事務局が最終報告（案）について纏めたものになる。
- P1は会議の紹介、P2,3はこの会議の審議経過、P4は最終報告の趣旨を記載している。
- P5に、利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業のあり方について、1現状、2課題、3今後の方向性、4協働でできることに分けている。

【1】現状

- 子育て支援センターや児童館・青少年会館、子ども育成課において、様々な相談や情報提供を各々で実施しています。
- 子育てガイドブック「葉みんぐ」は、子ども育成課窓口にて出生及び転入手続きの際に配布していますが、改定した今の「葉みんぐ」は、初期の「葉みんぐ」に比べ、情報を変更しているところがある。
- ひろば事業を子育て支援センターや児童館・青少年会館で行い、相談及び情報提供等を実施している。（利用者支援事業 基本型）
- 保健師等の専門性を活かした相談及び情報提供等を実施している。また、乳幼児全戸訪問事業等で訪問した際に、相談及び情報提供等を実施している。（利用者支援事業 母子保健型）
- 現在の子育て世代は、スマートホンなどから情報を得ることが多い。

【2】課題

- 住民がどこに何の相談をすればよいのか分からない。
- 住民のライフステージを一貫した、包括的な支援が不十分である。
- 子育てガイドブック「葉みんぐ」があまり活用されていない。
- 子育て支援センター「ぼけっと」を利用する人が限られている。

【3】今後の方向性

- 「葉みんぐ」の次回の改定時（平成29年3月改定予定）に使いやすく、分りやすく、活用されるものになるように内容を充実していく。利用者のニーズに合った「葉みんぐ」に改定していく。
- 「葉みんぐ」を住民全体に広がるように周知していき、町内、全ての公共施設に配架していく。

- 保育園、幼稚園など関係機関の横の繋がり（連携）を強化していく。
- 子育て支援センター、児童館等、保育園、幼稚園などの子育て関係機関が「葉みんぐ」の情報内容の詳細を理解し、子育て支援の情報提供や必要に応じた相談・助言等をできるように人材育成をしていく。
- 子ども育成課窓口においても、保健師等の専門性を活かした相談等の機能を継続していく。
- 子育て支援センター、児童館・青少年会館との連携を今まで以上に行い情報共有し、役割の確認等を行い、ひろば事業を充実していく。
- 町ホームページの「こどもページ」から子育ての情報提供をしていく。

【4】協働でできること

- 町民活動団体やNPO法人等を含め、相談機能充実や情報内容熟知のための勉強会を実施する。
 - 町民活動団体やNPO法人等と連携し、情報共有しながら、「葉みんぐ」の改定や子育てマップ（仮）等の作成をしていく。
 - 町内の子育て支援に関わる町民活動団体やNPO法人等の地域と行政との情報交換や話し合いを行い、横の繋がりを強化する。
- 資料3は、国の説明会資料を抜粋したものになる。利用者支援事業の葉山町のイメージ図を示したものになる。母子保健型と基本型が連携し、子ども育成課の1つの窓口で実施している。

（委員）

現状の4つ目の母子保健型で乳幼児全戸訪問事業とあるが妊娠期から切れ目のない支援と言う保健師の活動を表現した方が良いと思う。

（委員）

現状の1つ目は、「実施しています」と表現しているが、それ以降は「ある」と表現しているので、ですます調を揃えた方が良い。あと、「スマートホン」ではなく「スマートフォン」である。P6の協働でできることの中で、「町民活動団体」との表現ではなく、ボランティア活動団体などの表現に変えたほうが良い。説明を聞くと、今の現状がどう変わるのかが見えない。子ども育成課で実施している母子保健型と子育て支援センターなどで実施している基本型が連携しているので、現状で十分

と受け取れる。実際の親子は、どこに相談をしていいか分からないなどの声があるので現状では不十分と言うことを踏まえて、どうするのか考える必要がある。

(委員)

現状と課題と今後の方向性になっているので、住民がどこに相談をすればよいか分からないが課題の中に入っているのでは、このままで良いと思う。

(委員)

住民がどこに相談すればよいか分からないことに対し、どうするなどの具体的なことが記載されていない。母子保健型と基本型が連携して実施していても、どこに相談していいか分からない人がいる。その分からない人をどのように助けていくかが問題であり、1つの窓口に行けば子育ての相談を受けてもらえるなどのはっきりした表現をした方が良いと思う。

(委員)

課題に住民がどこに何の相談をすればよいか分からないとあり、その解決策を今後の方向性に表現すれば良いということか。また、子ども育成課の窓口ではなく、違う相談窓口を設置するという事なのか。例えば、子育て支援センターや児童館などで相談を受けた場合、その相談についてどこに相談すればいいとかの割り振りができるという表現がいいのか、子ども育成課ではない別の相談窓口を設置するという表現がいいのか分からない。

(委員)

葉山町としてのどのような利用者支援事業がいいのかを子ども子育て会議で纏めて、町長へ答申する場と思っている。議論が纏まっていないので表現があいまいになっていると思うので、表現のしかたを利用者支援事業については今後も検討していきたいなどの表現にしてみても思う。現状のものを充実させればカバーができるイメージになっているが、「ぼけっと」や児童館へ行けない人達が問題と思っている。どこにも行けない人達をどうするのかを含めてあり方を考えるべきではないか。

(委員)

資料3で、葉山町は子ども育成課窓口1つで母子保健型も基本型も行っているとのことだが、住民がどこに相談していいのかわからないことが本音であり、役場は行きづらいところと思う方がいるので、子育て支援センターや児童館に相談役がいれば相談しやすいのではないかと。

(委員)

「ぼけっと」や児童館へ行けない方は、健診時に相談できる場があるので、その場で必ず相談できる体制を検討してみる必要がある。

(委員)

相談する窓口がどこかを明確に最終報告へ記載することは難しいと思う。資料3の中に乳児家庭全戸訪問事業があるが、葉山町は100%近く訪問をしているので、保健師などが情報や相談を受けることができる。窓口での相談も大事だが、1対1で話ができる状況も大事であり、民生委員が赤ちゃん訪問事業を希望者のみ行っているので情報提供ができる。課題についても明確に記載しており、今後の方向性の中に、赤ちゃん訪問事業などの事業の流れを紹介し、その事業を充実していく表現でもいいかもしれない。

(委員)

子育て支援センター、児童館、保育園なども十分相談できる役割を果たしていると思うが、乳幼児など小さい子どもの相談は充実しても、相談できるハードルの高さを感じさせない気軽に相談できる窓口ができたらあってもいいと思う。子ども育成課窓口に何でも相談コーナーや気軽に何でも相談してくださいなどの表示をしてもいいと思う。

(会長)

委員からの意見を纏めると、

- ・現状については妊娠期からの切れ目のない支援を記載したほうが良い。
- ・表現について、てにおは等を含め表現を確認する。
- ・現状はあるが、その内容を充実するため、相談をしたいが相談をする勇気がない方や相談へたどりつけない方をどのように見つけ、どのように支援するかをどのように今後の方向性の中に記載していくか。

○資料1の P3 (2) 一時預かり事業の拡充、ファミリー・サポート・

センター事業について、前回の会議後に各委員からいただいた意見を纏めたものになる。

- ・ 支援会員と利用会員のミスマッチは、全国のファミサポの課題です。制度としての課題だと思う。
- ・ 一時預かりのニーズはこれからも高くなると思うので、保育園以外にも預かることのできる場所を増やすことが必要と考える。
- ・ 逗子市では、公民館を利用して一時預かり保育を行う子育て支援団体が活動している。

○資料2は委員からの意見を基に事務局が最終報告（案）について纏めたものになる。P7に、一時預かり事業の拡充、ファミリー・サポート・センター事業について、1 現状、2 課題、3 今後の方向性、4 協働でできることに分けている。

【1】現状

- 子育て支援センターで実施している一時預かり事業は、利用希望者が多くキャンセル待ちの方が多い状況である。
- ファミリー・サポート・センター事業の支援会員は毎年増えているが、活動できる支援会員は限られている状況である。
- ファミリー・サポート・センター事業の制度の周知が幅広くできていない。
- 町内会が一時預かり事業を行っているところがある。

【2】課題

- ファミリー・サポート・センター事業の利用料の負担が大きい。
- 保育サポーター養成講座を受講しても、ファミリー・サポート・センター事業の活動ができていない支援会員が多いのは制度としての課題である。
- 一時預かり事業の利用枠が少ない。

【3】今後の方向性

- ひとり親家庭等に対し、ファミリー・サポート・センター事業の利用料の助成を行い、保護者の経済的負担の軽減をしていく。
また、ひとり親家庭等に限らず全体的に助成できるように検討していく。

- ファミリー・サポート・センター事業の活動ができていない支援会員が活動できるように工夫していく。
- ファミリー・サポート・センター事業の制度の周知を幅広く行う。
- 町内会などで一時預かり事業を行っていることに対し、町のバックアップ体制を検討していく。
- 子育て支援センターの一時預かり事業のほか、幼稚園・保育園で一時預かり事業を実施できるか調査を行っていく。
- 幼稚園・保育園以外でも一時預かり事業を実施できる場所の調査を行っていく。
- 子育て支援センターで一時預かり事業が行われているが、今よりも利用枠を拡充していく。
- 待機児童が解消した場合は、葉山保育園が拠点となり、一時預かりの機能や役割を担っていく。

【4】協働でできること

- ファミリー・サポート・センター事業の制度を地域に幅広く周知する。
- 地域で一時預かり事業を実施できる場所の調査、情報提供を行っていく。

(委員)

現状で、町内会などが一時預かりを行っている、今後の方向性でも町内会などの一時預かりを町がバックアップしていくとあるが、町内会などが子ども会と一緒に一時預かりを行っているのか、保険などのことも含めて内容を知りたい？

→葉桜自治会で子ども会とは関係なく行っている。料金などは分からないが町内会の中で立ち上げ、町内会の中の子どもを預かり、利用はかなり多いと聞いている。近所のロコミで利用者多く、食の関係でおかしの作り方などの講習をしたりしている。葉桜自治会は葉桜児童館の上に自治会館があるので、自治会館にあつまり講習などしている。他の町内会でもやる気はあると聞いているが、事故時の補償の問題などが分からないので実施できていないところもある。一時預かりではなく送迎のボランティアを行ないたい町内会もあるのだが同じように事故時の補償の問題などが分らなく実施できていないようだ。

(委員)

ファミリー・サポート・センターの課題の2番目で、制度が課題であり、課題のある制度を活用することがどうなのかが町の課題ではないか。活動できない支援会員が多く、依頼会員が増えているのは全国のファミリー・サポート・センターがこの問題を抱えているので、ここの表現を変えたほうが良いと思う。依頼内容は保育園などへの子どもの送迎を行い、そのまま預かる内容が多く、車での送迎なので事故等の補償は女性労働協会の補償などきちんとできているので、町内会などの民間が行う事業よりは補償が充実している。一時預かりの受け入れが少ないので、自主保育が増えてきている。これらの自主保育へアレルギー対応の研修等の情報を教えてあげることも大事と考える。

(委員)

一時預かりを行っているが1時間500円でファミサポは1時間800円なので1日預ければボランティアの金額ではないと思う。利用料の助成制度を考えるべきと思う。

(委員)

現状の中に、子育て支援センターは月曜日が休みと記載して方が良い。また、課題の中に月曜日が休みなので一時預かりを利用できないことも記載して欲しい。月曜日にどこにも預けられないことが課題と思う。

(委員)

周知については、「ぼけっと」の中でも考えていきたいと思う。支援会員が限られてしまうことはファミサポ事務局でも課題になっている。活動できていない支援会員を保育園や支援団体へ派遣できないかなどの依頼もあるので平等に活動できるように来年度は具体的に考えていく。ファミサポの利用料については、ひとり親家庭への利用料の助成を子ども育成課と検討している。一時預かりについては預ける理由はいろいろあるが命を預けるという意識をもってもらいたい。

(委員)

一時預かり事業でどのくらいの方がキャンセル待ちで困っているのか？

→時期にもよるが10人の枠に対し、3~4人のキャンセル待ちのときもある。今の時期は、保育園が決まるまでの時期など年度末にかけて利用者は増える。今までの利用者が保育園や幼稚園に入園し、4月以降は

利用者が減るのが例年の状況だ。年間を通じて常にキャンセル待ちがある状況でもない。

(会長)

委員からの意見を纏めると、

- ・今後の方向性（案）の中に、利用料の助成など経済的負担を軽減する内容はそのまま記載する。
- ・自主保育と一時預かりをどのように繋げていくかを今後の方向性の中に明記できれば良い。
- ・町内会の一時的預かりや自主保育の方向性を協働でできることに明記していくことが必要になる。
- ・今後も検討を重ね、少しでも前進できるようにしていく。

○資料1のP4(3)放課後児童クラブ(放課後子ども教室)のあり方について、前回の会議後に各委員からいただいた意見を纏めたものになる。

- ・町直営の学童クラブは、児童館事業のうち的一部分です。学童、一般利用の子どもたちの区別がつかないように、運営している。
- ・町直営の学童クラブは3年生まで受け入れだが、現状は3年生になると自主的に利用が減り、退会される子どもが多い。
- ・登録数が多く、学童クラブ枠が足りないように思うが、実際の利用は5～6割の利用の場合が多い。
- ・学童クラブとして多様性を認めるなら、今の葉山のやり方でも良いと思う。
- ・放課後の校庭開放については、PTA、子ども会、町内会などの地域の大人の見守りの協力体制を整えれば、実現しやすいと思う。

○資料2は委員からの意見を基に事務局が最終報告(案)について纏めたものになる。P9に、放課後児童クラブ(放課後子ども教室)のあり方について、1現状、2課題、3今後の方向性、4協働でできることに分けている。

【1】現状

○保護者の選択により町直営又は民間の学童クラブに入会している。町直営学童クラブは145名、民間学童クラブは92名(11月末)が入会している。

- 児童館・青少年会館を利用している。利用者は40,618名（11月末）で利用者は年々増えている。
- 一度帰宅し、学校の校庭や公園、児童館等を利用している。

【2】課題

- 町直営の学童クラブは、預かり時間が短い、おやつが持参である、児童館の一般利用者との区別がつきにくい。
- 学校の校庭は開放されているが、一度帰宅しないと、校庭が利用できない。児童館・青少年会館も同様である。
- 放課後子ども教室としての事業を求める声がある。

【3】今後の方向性

- 学童クラブと放課後子ども教室を小学校内で実施できるよう関係機関と話し合いをしていく。
- 放課後、家に帰らずそのまま子どもたちが校庭や体育館で遊ぶことができるシステムを関係機関と話し合いをしていく。
（例 17時頃までの学校の校庭開放など）
- 放課後、家に帰らずそのまま児童館・青少年会館へ遊びに行けるシステムを関係機関と話し合いをしていく。
- PTAなどで放課後の子どもの居場所事業を行っていくことに対し、町のバックアップ体制を検討していく。

【4】協働でできること

- 放課後の子どもたちの過ごし方について、地域の関心を持ってもらい、地元の町内会、子ども会、PTA、行政等が話し合いをする。
- 放課後の子どもたちの見守り活動を行うなど、地域と行政ができることについて話し合いをする。

（委員）

放課後事業について、町は民間に任せるつもり感をすごく感じる。放課後子ども教室を本当に実現できるか不安を感じる。

（事務局）

町の考えとして、学童クラブは子どもの安全を考えると学校に近い場所で行う、また、フルタイムで就労している保護者は児童館と一緒に学童クラブではなく、放課後の家となる学童クラブだけを行っているものを希望し

ているれなどの意見により進んできた経緯がある。今回、一色小学校の中でモデル的に学童クラブを行うことができた。放課後子ども教室については、実施しないではなく、実施するために話し合いをしていくことだと思っている。

(委員)

保育園で学童クラブを始めて、10年ほどになる。民間の学童クラブも少しずつ増えている。町直営の学童クラブや民間の学童クラブなど選択肢が増え、良いことだと思っている。先日、児童館の職員が「ぽけっと」で研修を行い、職員同士の交流ができたことがとても良かった。児童館の役割も学童クラブを無料で行っていることも大事だと思う。放課後子ども教室については、検討をしながらいい形にできればと思う。

(委員)

小学校では学童クラブのニーズがあることは分っている。放課後の学校開放でも開放するだけでは意味がないと思う。開放には、いろいろな検討が必要になってくる。保護者の立場では、就労など様々な理由で子どもを預ける必要がある。子どもたちの立場でもいい方法を考える必要がある。例えば、校庭体育館開放を5時までにした場合、イトーピアに住んでいる子どもは帰宅にかなりの時間がかかると防犯上の問題などもあることから、今は保護者の許可があれば校庭で4時まで遊んでいいことにしている。4時までが限界である。安全面や子どものストレス面を含め考えていきたいが、送迎のことや安全指導、安全監督面を考え1つ1つクリアしないと、放課後事業は成功しないと思う。葉山町の中には、放課後、子どもたちが遊ぶ場所が少ないので放課後事業をいい方向で絡めていくことが大切である。学校開放が5時までとなると、学校としては職務があるので及ばないところがあることを十分に承知して欲しい。以前、葉山小で実施した放課後の居場所事業は継続していない状況もある。

(委員)

参考資料3で、学童クラブの登録予定人数が記載されているが、一色小学校の学童クラブだけが定員割れしている。今後の方向性の中で、今後、学校を開放していくためにどのような整理をし、学校が妥協できることも含め明記して欲しい。

(委員)

現状の中で、児童館、青少年会館の利用者を記載しているが、この人数は児童のみの人数か？

→乳幼児も含めた延べ人数。

(委員)

児童館では一般も学童も一緒の地域の子どもたちとして過ごしているので区別なくすることが大事だと思っているので課題の1つ目は、矛盾を感じる。3年生ぐらいになると自主的に退会する子も多くいる。登録数が多く、学童クラブ枠が足りないように思うが、実際の利用は5~6割の利用の場合が多い。学童へ登録をしないで一般利用で来館する子もいる。放課後子ども教室は、その小学校区の子どもが対象になるが、児童館は小学校区に関係なく遊ぶことができ、異世代間の交流ができる違いはある。学校の校庭開放については、学校や保護者と話し合っていく必要はあると思う。

(委員)

町直営の学童クラブの無料には疑問を持っていた。各委員の話を聞いていると無料の学童クラブにも必要性を感じた。課題の1つ目が、葉山町の課題なのか疑問である。これが、課題であれば、お互いに補える体制が必要であると思う。

(委員)

課題の1つ目は、満足していて課題ではない。課題になるのはおかしいと思う。学童クラブには感謝している。一色小学校の学童クラブの課題は学童保育料である。

(委員)

課題の1つ目は、以前のアンケートを基にこのような表現になっていると思うので課題ではないと思う。町直営の学童クラブの不満になっているが、町直営の学童クラブへの不満はないので表現を変えたほうが良い。

(委員)

現状の2つ目に、児童館・青少年会館の利用者数40,618名とあるが、明記は必要ないと思う。

(委員)

町直営の学童クラブも民間の学童クラブも両方が必要だと思う。お互いの機能を分担していくことが必要である。

(会長)

委員からの意見を纏めると、

・今の表現だと町直営の学童クラブがあまりよくないものを感じてしまうのでお互いのいいところを受け止め行っているの、課題よりも現状の内容を整理していく。

(2) 座談会について

(委員)

- 次回の座談会の開催日時は、4月24日(日)10:00~12:00で開催する。場所は保育園・教育総合センター 研修室で行う。(前回の座談会と同じ場所)
- 次回も座談会形式で行う。
- 内容は、町の子育てについての意見交換などを行う。
- 例えば、「町の子育てについて考えてみませんか」などをキャッチフレーズにし、対象者を子育て世代からシルバー世代まで幅広く呼びかけを行い、子育て世代が困っていることやシルバー世代ができることなどを情報交換してもらえるような座談会にする。
- 自治会が行っている一時預かり事業の概要や状況を話してもらうこともいいかもしれない。
- まずは、チラシ(案)を作成することからスタートする。

(委員)

子ども子育て会議と自主勉強会との位置づけはどうなっているのか？

→子育てをしている方たちの生の話を聞き、不満をぶつけるだけでなく、私たちにも何かできることを探り、アンケートでは拾えない声を拾っていきたい。自主打合せや勉強会の中で生の声が聞けると思っているので興味のある方には座談会へ参加してほしいと思う。葉山の親たちが多様な課題を抱えていることを知ってもらいたいと思う。

(委員)

この座談会は、現状の親の課題を聞くことが目的だと思うが、一部の親の意見にならないようにしてほしい。葉山町全体の意見として取るには参加人数や毎回参加者が同じだと意味がないので、もう少し発展させていくことがいいと思う。子ども子育て会議に生かして行くことを目的にするのであれば、この座談会へ参加した方だけの意見が葉山町の現状にはならないと思う。もう少し今後の運営の仕方を考えたほうが良い。

(3) その他

- 参考資料 2 は、平成 28 年度の町内認可保育所と小規模保育所の内定者数を一覧にした。内容は記載のとおり。
- 参考資料 3 は、平成 28 年度の町内学童クラブの登録予定人数を一覧にした。内容は記載のとおり。
- 前回の会議後にいただいた意見の中に、公的な施設の指定管理委託などの町のガイドラインを見せて欲しいと言う意見があったが、町のガイドラインはなく、子育て支援センターを指定管理にしたときの条例と指定管理者募集要領を参考資料 4 として提出した。参考に見て欲しい。

(4) 閉会

(事務局)

寶川会長と町長との日程調整を行い、3月中のどこかで答申の日を決めた。答申の日は、後日、連絡させていただく。

次回は5月に予定しており、あらためて日程調整を行う。